

支 出 書

会 派 名	公明党	整理No. 1 -
科 目 (該当○印)	1 調査研究費 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費	
金 額	104,850 円	
支出年月日	2024 年 7 月 6 日	
支 出 内 容	7月3日～5日 行政視察(兵庫県尼崎市 駅周辺まちづくり) (新潟県十日町市 使用済み紙おむつ燃料化) (石川県金沢市 県立図書館)への出張旅費	
支 出 先	別添の通り	

領 収 書 (該当○印)	☒ (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 印

(領収書添付欄)

領 収 書

(会派名) 公 明 党

2024年7月6日

(代表者) 宮本 宏樹 様

¥ 1 0 4 8 5 0

但、7月 3日～ 5日

行政視察

尼崎市、新潟県十日町市、金沢市への出張旅費

[内 訳]

上 記 正 に 領 収 い た し ま し た

	金 額	摘 要
交 通 費	65,950円	尼崎市・十日町市・金沢市
日 当	9,300円	3日
宿 泊 料	29,600円	2泊
()	円	

(会派名) 公 明 党

(名 前) 宮本 宏樹



研究研修・調査報告書

会 派 名	公 明 党	報 告 日	2024 年 7 月 17 日
代 表 者	宮 本 宏 樹 	報 告 者	宮 本 宏 樹 
参 加 者	宮 本 宏 樹		
実 施 日	2024 年 7 月 3 日 ～ 5 日		
研究研修・調査等の場所	行政視察 駅周辺の特色を生かしたまちづくり 兵庫県尼崎市 行政視察 使用済み紙おむつ燃料化実証事業 新潟県十日町市 行政視察 本との出会いを楽しむ空間 石川県立図書館		
目 的	先進事例を視察し、本市の課題解決の参考にする。		
行政視察等の概要 7 月 3 日(水) 10:30～12:00 駅周辺の特色を生かしたまちづくりの推進 (兵庫県尼崎市) 尼崎市の人口は本市とほぼ同じ約 45 万人で、面積は 10 分の 1 程度の約 50 km ² である。阪神、阪急、J R の 3 本の鉄道が走っており、大阪、神戸という大都市の間に位置することから、阪神工業地帯のベッドタウンとして発展してきた。 しかし、昨今の全国的な少子高齢化・人口減少の中で、尼崎市も人口減少の傾向があり、特にファミリー世帯の転出超過が課題となっている。そのため、まちのイメージアップや市内学校の学力の向上に力を入れている。 阪神尼崎駅周辺には、市の公共施設が集積しているが、施設ごとに管理が異なっており、管理効率の面や駅前空間として十分な利活用ができていなかった。市のイメージを形成するエリアであることから、駅周辺の公共施設を一括して指定管理者に管理委託し、公共空間の賑わいの創出や魅力向上を目的としたまちづくりを行っている。 駅の商業施設と公園、駐車場、駐輪場、それと隣接する中央公園、城址公園を一			

体的に活用し、エリア全体を俯瞰した賑わい創出の取り組みを行っており、地域で活動する人が中心となるマルシェ開催や「涼」をテーマにして、駅の南北にある中央公園と城址公園等を中心に納涼祭を開催し、エリア内回遊のきっかけづくりや滞在時間の増加を図っている。現在は駅に隣接する中央公園のリニューアルと駅前広場の複層化（下がバスターミナル、上がウォークアブル空間）などに取り組んでいる。市内にある他の駅(12 か所)にも順次、駅を中心としたまちづくりの展開を目指している。

尼崎市は阪神工業地帯として発展してきた経緯があり、経済発展に力を注いできたが、文化財や観光は二の次であった為、今になって、尼崎城を始めとする文化財に注力するようになった。

7月4日(水)

13:00~14:30

使用済み紙おむつの燃料化実証実験（新潟県十日町市）

十日町市は、人口約4万8千人で、面積は約590㎢と本市より少し大きく、市の中央を信濃川が流れ、冬場は市街地の平均積雪が2mを超える全国有数の豪雪地帯である。

十日町市のエネルギー政策の取り組みとして、太陽光発電設備の導入や地中熱等を利用して公共施設へのエネルギー供給、下水熱を使って道路融雪・保育園の空調利用が行われている。次なるエネルギー政策として、使用済み紙おむつの燃料化実証実験を手掛けている。

市内で年間約1000tもの使用済み紙おむつが発生しており、その内事業系が500~600tに上り、今後も高齢化の進展により排出量の増加が見込まれることから、課題の解決と「資源の循環利用」「エネルギーの地産地消」のモデルの構築を図ったものである。

市のごみ焼却場より排出される熱を利用して使用済み紙おむつを乾燥滅菌し、細分化した紙おむつと木質チップを混ぜ合わせてペレット化し、使用済み紙おむつを排出した福祉事務所で給湯熱源として利用することで、エネルギーの再利用を図っている。

ただし昨今、バイオマス発電所が増えてきた事で、使用済み紙おむつと混ぜる間伐材が品薄となっており、事業自体の拡大が難しい状況である。

7月5日(木)

11:30~12:30

石川県立図書館の施設見学（石川県立図書館）

新・石川県立図書館は、令和4年度に金沢大学工学部跡地に移転・建替えたもので、敷地面積は3㎢を超え、本体建物は4階建て、延べ面積が2㎢を超える「思いもよらない本との出会いや体験によって、自分の人生の1ページをめくることができる場所」をコンセプトに、設計施工された図書館である。館内は「閲覧エリア(1~4F)」「こどもエリア(1F)」「文化交流エリア(1~2F)」に大きく分かれている。

閲覧エリアは、本と出会う12のテーマが並ぶ円形の本棚や、分類別図書が並ぶ本棚のほか、その日の気分に応じて楽しめる様々な閲覧席500席が配置されており、モニター表示で空席の状況を一覧できるようになっている。こどもエリアは、年齢や興味に合わせて、椅子に座ったり、寝転がったり、自由なスタイルで、読書でき

る場所で、親も子も楽しく過ごせるコーナーを設置している。文化交流エリアは、本だけでなく、人・モノ・情報が集まり、交流するための広場やスペースを配置しており、イベントの参加や自習・読書など、思い思いに過ごせる空間になっている。

館内は、円筒形の広々とした建物で、東西南北で色分けされ、それらを結ぶ通路には様々な形の閲覧席が設けられ、来館者は好きな本を手に取り、思い思いに過ごせる快適な空間となっている。

カフェも併設されており、館内への食べ物のも持ち込みは不可であるが、蓋つき飲み物の持ち込みは可となっている。文化交流エリアでは、おしゃべりもできることから、あらゆる世代の交流の場として活用されており、長時間滞在しやすい図書館になっている。

所感

尼崎市は、人口規模は本市と同じぐらいであるが、大阪、神戸という大都市の間にあり、各駅の乗降客数が多く、賑わいをうまく作り出すまちづくりをされていた。その反面、地域の歴史や文化を利用した取り組みは、これからの様であった。本市は、福山城をはじめとする歴史文化等に視点をおいて賑わいのあるまちづくりが進んでおり、その優位性を活かして、神辺駅、松永駅などの各拠点駅にも展開すべきと感じた。

十日町市の使用済み紙おむつに特化したエネルギー再利用は、国内屈指の豪雪地帯であることから発想されており、冬場の暖房等へのエネルギー循環がなされていた。本市は、本年より新たなごみ焼却施設が稼働しており、その排出エネルギーで発電など行われ、公共施設等に利用されているが、本市も十日町市のように地域特性を生かした循環型社会の在り方を検討して行けたらと思った。

また、石川県立図書館は、居心地の良い滞在型の施設を目指して設計されており、本市の図書館の在り方、今後建設されるこども未来館に反映できる取り組みが多岐にわたった。

いずれも特色ある取り組みで大変触発され、本市のこれからの課題へのヒントとなった。それぞれの事例を参考にして、市政に展開できる提案を議会質問等で行って参りたい。

以上